公立大学法人公立千歳科学技術大学
令和元年度 業務実績評価書
(作成例)

令和 2 年 月

千歳市公立大学法人評価委員会

目 次

1	評価の考え方	1
(1)	基本方針	
(2)	評価方法	
2	評価期間	2
3	全体評価	3
4	項目別評価	
「2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」	5
「3	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置」	6
「4	国際交流に関する目標を達成するための措置」	8
「5	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置」	9
「6	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置」	10
「7	自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置」	12
「8	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置」	13
5	千歳市公立大学法人評価委員会委員名簿	15
<参考資料>		
	・公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務実績評価方針	16
	・公立大学法人公立千歳科学技術大学の年度評価実施要領	18

1 評価の考え方

千歳市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2の規定により、公立大学法人公立千歳科学技術大学の令和元年度の業務実績について、「公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務実績評価方針」及び「公立大学法人公立千歳科学技術大学の年度評価実施要領」に基づき、以下のとおり評価を行った。

(1) 基本方針

- ア 評価は、大学における教育研究の特性に配慮して行うものとする。
- イ 評価は、法人の自己点検・評価に基づいて行うことを基本とする。
- ウ 評価は、書面調査、ヒアリング及び現地視察を通じて行うものとする。
- エ 評価は、中期目標の達成に向けた中期計画又は年度計画の実施状況を確認する観点から行うものとする。
- オ 法人運営の継続的な改善・質的向上に資する評価を行う。

(2) 評価方法

法人より提出された、当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人へのヒアリングにより、業務の進捗状況について調査・分析を行い、その結果を踏まえ、「項目別評価」及び「全体評価」により評価を行った。

ア 項目別評価

項目別評価は次の区分により行った。

評価	定義	判断の目安
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。	小項目別評価及び指標評価がすべてA又はBであり、かつ、業務の進捗状況や業務実績の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が特に認める場合
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。	小項目別評価及び指標評価：すべてA又はB
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。	小項目別評価及び指標評価のA又はBの割合：それぞれ9割以上
C	中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。	小項目別評価又は指標評価のA又はBの割合：9割未満

D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が特に認める場合
---	-------------------------------------	---------------------------------------

イ 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、次の5段階により評価するとともに、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行った。

評価	定義
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
C	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 評価期間

次の事業年度における業務の実績について、評価を行った。

令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

3 全体評価

(1) 評価結果

評価	定義
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。

(2) 総評

法人から評価委員会に提出された「令和元年度業務実績報告書」の確認及びヒアリングを行い、当該年度における中期計画の実施状況について評価を行ったところ、評価委員会において A 評価を妥当とする小項目及び指標は〇項目（〇パーセント）であり、中期計画に沿っておおむね順調に進んでいると認められる。

なお、評価方針において「評価は、書面調査、ヒアリング及び現地視察を通じて行う」ことを定めているが、今年度の評価については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から現地視察を行っていない

科技大の中期目標における基本的な目標は①人材育成と②地域貢献である。①人材育成については、カリキュラムの編成や教員採用の実施、またグループワークを取り入れた授業の開設が可能となる増築棟の建設に向け準備を行っている。②地域貢献については、理工工房による市内小中高等学校などにおける実験授業など学生による活動のほか、地域連携センターを設置し、コーディネーターによる企業訪問を積極的に実施するなど、計画に沿って取り組んでいると認められる。

令和元年度は、公立大学法人としての最初の事業年度であり、法人は求められた中期目標の達成に向けスタートした所である。

最も重要な目標の一つである入学定員の確保については、広報活動や学生募集活動などの実施により達成され、また、AO 入試や推薦入試における評価を適切に行うことにより、科技大が求める学生の確保がされたことは評価できる。

しかし、志願者の増加は、受験者の国公立大学志向、授業料の軽減など、科技大の公立化を原因とする部分が大きいことも事実である。少子化の傾向に歯止めがかからない現状を鑑みるに、これからも受験生に選ばれる大学であり続けるために、健全な財務運営の下、大学の魅力向上のための継続的な努力が必要である。

中期目標に掲げられた、「人格に優れ、次代の日本を担う自立心と人間力に満ちた社会人を育成し、優れた技術者を輩出するとともに、学術・技術の振興に努める」「さらに、千歳市における知の拠点として、将来にわたって地域と共生し、産業経済の発展に寄与する」という法人設立の目的達成に向け、引き続き法人の円滑な運営と大学の教育研究の発展が図られることを期待して、全体評価の総括とする。

項目別評価結果

項目名 \ 評価	S 特筆すべき 進捗状況	A 順調	B おおむね 順調	C やや 遅れている	D 重大な改善 事項あり
教育研究等の質の向上		○			
地域社会等との連携・協力		○			
国際交流		○			
業務運営の改善及び効率化				○	
財務内容の改善			○		
自己点検、評価及び情報公開		○			
その他業務運営				○	

4 項目別評価

「2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	26	100%	0	0%	0	0%
指標	0	0%	10	100%	0	0%	0	0%

■評価理由

すべての小項目及び指標について、B評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

■特記すべき事項

- ・ 入学者数について、学部においては入学定員を満たしている。また、大学院では定員を満たすことができなかったものの、前年度比増となり、また科技大出身の大学院進学者も増加していることは評価できる。
- ・ 共同研究・受託研究の実績値が目標値及び前年度実績を上回っている。これは外部資金の獲得及び大学の研究力の向上に寄与するものであり評価できる。引き続き取り組みを推進されたい。
- ・ 就職希望者の就職率 99.3%となっており、就職に強い大学であることが証明されている。今後も世に有為な若者の輩出を期待したい。

■今後期待される事項

- ・ 研究活動の向上のため、科研費など競争的外部資金獲得のための取組を一層促進していただきたい。

「3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	15	100%	0	0%	0	0%
指標	3	30%	7	70%	0	0%	0	0%

■評価理由

指標のうち3項目についてはA評価（年度計画を上回って実施している）、そのほかの指標及び小項目についてはB評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

■特記すべき事項

- ・公開講座のアンケートにおける満足度が97%と高いことは評価できる。今後も市民ニーズを的確に捉え、生涯学習の場の提供を行うことが望まれる。
- ・コーディネーターによる積極的な企業訪問により、技術相談や研究につながる事例が発生していることは、地域課題の解決や地域の発展に寄与するものとして評価できる（教員の研究につながる技術相談8件、学生の教育や研究につながった成果2件）。
- ・学生の活動である理科工房が、市内児童館・小中高等学校において実験授業を96回実施しており、学生の積極的な活動がまちの活力につながっていると評価できる。

■今後期待される事項

- ・中期計画に掲げる「地域課題の分析及び課題解決に向けた取組促進のための情報発信」について、ホームページへの掲載で目的が達成されるのか、検討が望まれる。
- ・中期計画の指標の一つ「セミナー、展示等の開催実績を年2回以上とする」に向け、具体的取組を開始することを期待する。

- ・各種業務実績の記述について、開催時期や内容を一覧表にするなど、分かりやすい表記とすることが望ましい。

「4 国際交流に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
	小項目	0	0%	4	100%	0	0%	0
指標	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%

■評価理由

すべての小項目及び指標について、B評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

■特記すべき事項

- ・なし

■今後期待される事項

- ・学生及び教職員の海外機関との連携強化という目標達成に向け、教育力及び研究力の向上に引き続き取り組まれない。

「5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
C	中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	17	100%	0	0%	0	0%
指標	0	0%	1	15%	3	75%	0	0%

■評価理由

指標のうち3項目についてはC評価（年度計画をやや遅れて実施している/実施が不十分）、そのほかの指標及び小項目についてはB評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成のためには進捗がやや遅れていると認められる。

教職員が一丸となって継続的に大学運営の改善に取り組むという目標の達成に向け、各種研修が計画されていたが、年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により取りやめとなったことにより、計画の進捗に遅れが出ている。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことから、目標達成に向けた手段の見直しなどを適宜行い、目標達成に向け努力されたい。

■特記すべき事項

- ・なし

■今後期待される事項

- ・評価理由にも記載しているとおり、今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことから、目標達成に向けた手段の見直しなどを適宜行い、目標達成に向け努力されたい。
- ・研修内容の記載があるもの、ないものが混在しているが、目標達成に向けどのような研修を実施又は参加したのか、記載されていることが望ましい。

「6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	9	90%	1	10%	0	0%
指標	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%

■評価理由

小項目のうち1項目についてはC評価（年度計画をやや遅れて実施している/実施が不十分）、そのほかの小項目及び指標についてはB評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗していると認められる。

■特記すべき事項

- ・外部資金の獲得推進のため、科研費採択の傾向や応募申請書の書き方に係る研修会を実施し、受講者の科研費への応募につなげたことは評価できる。より一層の申請者増加に期待したい。
- ・寄附金収入の増額に向けた新たな取組として、同窓会員に案内を送付していることは評価できる。結果を分析し、次の取組につなげていただきたい。
- ・予算策定時において、複数社からの見積書徴取を行うなど、公立化により求められている「最小の経費で最大の効果を上げる」という基本的な認識の浸透が図られていることは評価できる。

■今後期待される事項

- ・科研費などの外部の研究資金獲得に向け、今後も研修会の開催など具体的な取組を行い、中期計画の目標である「専門教育担当教員全員の科研費に応募申請」を目指していただきたい。

- 寄附金収入の増額に向け、ホームページでも広く寄附を呼び掛けるなど、より積極的な取組を期待したい。
- コピー用紙の経費削減効果の検証が行われているが、契約の見直しには至っていないことから、契約の見直しを行うことが望まれる。

「7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%
指標	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%

■評価理由

指標のうち1項目についてはA評価（年度計画を上回って実施している）、そのほかの指標及び小項目及についてはB評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗していると認められる。

■特記すべき事項

- ・新入生へのアンケートを実施し、その分析結果を広報活動に生かしていることは評価できる。

■今後期待される事項

- ・中期計画の指標である「報道機関へのプレスリリースの回数を年20件以上とする」に対する実績値に、大学のホームページへの情報掲載件数がカウントされている。適切な実績値の算出を行う必要がある。
- ・中期目標において、大学の情報を適切に公表することと合わせて、効果的な広報活動を行い、より多くの学生に選ばれる大学を目指すことを掲げていることから、今後も広報活動の結果の分析を行い、効果的な広報に努めていただきたい。

「8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置」

■評価結果

評価	定義
C	中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

■小項目別評価結果

	A 上回る		B 計画どおり		C やや遅れ/不十分		D 下回る/未実施	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
小項目	0	0%	11	100%	0	0%	0	0%
指標	0	0%	6	86%	1	14%	0	0%

■評価理由

指標のうち1項目についてはC評価（年度計画をやや遅れて実施している/実施が不十分）、そのほかの指標及び小項目についてはB評価（年度計画を計画どおりに実施している）が妥当であり、中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗していると認められる。

「安全衛生及び危機管理に関する目標」達成のために計画されていた情報セキュリティに関する研修会が、年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により取りやめとなったことにより、計画の進捗に遅れが出ている。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことから、目標達成に向けた手段の見直しなどを適宜行い、目標達成に向け努力されたい。

■特記すべき事項

- ・なし

■今後期待される事項

- ・評価理由にも記載しているとおり、今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことから、目標達成に向けた手段の見直しなどを適宜行い、目標達成に向け努力されたい。
- ・「法令順守及び人権の尊重に関する目標」「教職員及び学生の法令遵守の意識向上の研修を行うとともに、ハラスメントなどの人権侵害の防止に向けた取組を推進する」

に対応する中期計画・年度計画の指標に「人権尊重の意識向上対策活動として教職員並びに学生に対し年1回以上研修を行う」を定めている。令和元年度の実績には、「学生には令和元年12月13日インターネット上の人権問題講座（札幌法務局出前講座）を開設し、2年の54名（選択科目「キャリア形成B2」履修者）が受講した」とあるが、一部の学生を対象とした指標ではないと思われることから、対象者を広げる必要がある。

5 千歳市公立大学法人評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
佐伯 浩	一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター代表理事会長
小川 恭孝	北海道大学名誉教授
福村 景範	元株式会社ダイナックス代表取締役社長
森木 博之	キリンビール株式会社北海道千歳工場長
千葉 崇晶	公認会計士・税理士

任期：平成30年8月2日から令和2年8月1日まで

公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務実績評価方針

この評価方針は、千歳市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が、公立大学法人公立千歳科学技術大学（以下「法人」という。）の業務実績の評価を実施するにあたっての基本方針及び評価の方法等について定めるものとする。

1 評価の目的

法人運営の質的向上を促進することを目的とする。

2 基本方針

- (1) 評価は、大学における教育研究の特性に配慮して行うものとする。
- (2) 評価は、法人の自己点検・評価に基づいて行うことを基本とする。
- (3) 評価は、書面調査、ヒアリング及び現地視察を通じて行うものとする。
- (4) 評価は、中期目標の達成に向けた中期計画又は年度計画の実施状況を確認する観点から行うものとする。
- (5) 法人運営の継続的な改善・質的向上に資する評価を行う。

3 評価方法

- (1) 評価委員会は、法人の自己点検・評価に基づき、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）第78条の2第1項に規定する次の評価を行う。
 - ア 各事業年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）
 - イ 中期目標期間4年目終了時に行う、中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間における業務の実績に関する評価（以下「4年目終了時評価」という。）
 - ウ 中期目標期間終了時に行う、中期目標期間における業務の実績に関する評価（以下「6年目終了時評価」という。）
- (2) 法第79条の規定に基づき、4年目終了時評価及び6年目終了時評価を行うに当たっては、認証評価機関の評価を踏まえることとする。
- (3) 評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
 - ア 項目別評価
中期目標・中期計画に定められた各項目の進捗状況又は達成状況を確認し、評価を行う。
 - イ 全体評価
項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期目標・中期計画の進捗状況又は達成状況の全体について総合的に評価を行う。
- (4) 評価の透明性・正確性を確保するために、評価結果を決定する前にその結果

を法人に示し、意見の申立ての機会を設ける。

4 法人において留意すべき事項

業務実績評価は、法人から提出される業務実績報告書を基に行うものであり、また、評価結果は広く市民に公表されるものであることから、法人は業務実績報告書の作成に当たっては、専門用語には用語説明を添えるなど、分かりやすい記述に努めるものとする。

公立大学法人公立千歳科学技術大学の年度評価実施要領

この要領は、千歳市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の公立大学法人公立千歳科学技術大学（以下「法人」という。）の各事業年度における業務実績評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し、「公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務実績評価方針」に基づき、必要な事項を定めるものとする。

1 評価方法

年度評価は、法人が提出する業務実績報告書を基に行うものとし、法人は、当該報告書に自己点検・自己評価結果を記載するものとする。評価委員会は、当該報告書及び法人への聴取、現地視察により業務実績の検証、評価を行う。

なお、法人は業務実績報告書を提出する際、評価の参考となる資料等を必要に応じて添付するものとする。

2 法人による自己点検・評価

(1) 小項目別評価

法人は、年度計画の記載項目（小項目）及び指標ごとに、当該事業年度の業務の実績を明らかにするとともに、以下の4段階により自己評価する。

評価	定義
A	年度計画を上回って実施している
B	年度計画を計画どおりに実施している
C	年度計画をやや遅れて実施している/実施が不十分
D	年度計画を大幅に下回っている/実施していない

(2) 大項目別評価

法人は、小項目別評価の結果を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、記述式により自己評価する。

- ① 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ② 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置
- ③ 国際交流に関する目標を達成するための措置
- ④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- ⑥ 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置

⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

(3) 全体評価

法人は、大項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な自己評価を行う。

3 評価委員会による評価

(1) 調査・分析

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書その他の資料確認、及び法人への聴取等により、法人による自己点検及び自己評価の妥当性の検証を行い、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査・分析を行う。

(2) 項目別評価

評価委員会は、調査・分析の結果を踏まえ、大項目ごとに中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案し、次の5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。

評価	定義	判断の目安
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。	小項目別評価及び指標評価がすべてA又はBであり、かつ、業務の進捗状況や業務実績の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が特に認める場合
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。	小項目別評価及び指標評価：すべてA又はB
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。	小項目別評価及び指標評価のA又はBの割合：それぞれ9割以上
C	中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。	小項目別評価又は指標評価のA又はBの割合：9割未満
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が特に認める場合

(3) 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、次の5段階により評価するとともに、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

評価	定義
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している
B	中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
C	中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。